



【教育目標】 自らの可能性を信じ、努力することのできる生徒を育成する。

【一学校一改善】 先手あいさつ

目的を持って工夫・改善を

11月になり、新型コロナウイルス感染症も落ち着き、感染症対策は継続しながらもレベル1に応じた活動を実施しながら教育活動を進めているところです。

11月8日(月)に生徒会引継式・新役員任命式を行い、そこから1週間の引継期間を経て、11月15日から後期の生徒会活動が本格的に始まりしました。朝のあいさつ運動や放送も新しいメンバーでの活動となり、新鮮さを感じています

さて、学校生活ではいろいろな行事等がありますが、朝読書や授業、掃除、部活動は、ほぼ毎日

当たり前に行われている活動です。掃除の時間には、毎日のことなので、時々、ただほうきで掃いているだけ、床を拭(ふ)いているだけになっている人を見かけます。自分たちの過ごす場所、例えば教室をきれいにしようという思いをもって、工夫し、他の人と協力しながら精一杯行っているかが問われます。

鹿児島県出身で京セラの創業者の稲森和夫氏が『生き方』という本の中で毎日の創意工夫が大きな飛躍を生み出すということの例として、掃除を取り上げていますので紹介します。



(略)ただし、継続が大切といっても、それが「同じことを繰り返す」ことであってはなりません。継続と反復は違います。昨日と同じことを漫然と繰り返すのではなく、今日よりは明日、明日よりは明後日と、少しでもいいから必ず改良や改善を付け加えていくこと。そうした「創意工夫する心」が成功へ近づくスピードを加速させるのです。

(略)より早く、よりきれいにする方法をいろいろな角度から考えてみる。また、掃除の手順ややり方にも工夫を重ねる。そうすることで、さらに手際よく効果的にできるようになっていくのです。

どんなに小さなことにも工夫改良の気持ちを持って取り組んだ人と、そうでない人とは、長い目で見ると驚くほどの差がついているものです。掃除の例で言えば、毎日創意工夫を重ねた人は、独立してビル清掃を請け負う会社を設立し、その社長に納まっているかもしれない。それに対し、漠然とノルマをこなすだけで工夫を怠った人は、相変わらず同じような掃除を毎日続けているに違いありません。

昨日の努力に少しの工夫と改良を上乘せして、今日は昨日よりもわずかながらでも前進する。その、よりよくしようとする姿勢を怠らないことが、のちに大きな差となって表れてくる。けっして通い慣れた同じ道は通らないということが、成功に近づく秘訣(ひけつ)なのです。

掃除だけでなく、学習にも、部活動にも、人間関係を築いていくことにも生かせることがたくさん含まれています。成績を上げたいと思うなら例えば宅習帳を工夫してみるとか、部活動で上手になりたいと思うなら他の人のよいところを見つけて練習に生かすとか、人間関係をよくしたいと思うならSSTでやったことを生かしてみるとか、工夫し実践できることはたくさんありそうです。後期が始まった今だからこそ、意識して取り組んでみましょう。そうすれば「未来の君は、今の君の頑張りにきっと感謝する」ことになると思います。